

令和7年度使用教科用図書採択検討委員会 特別支援教育専門部会議事録

日時 令和6年(2024年)7月17日(水) 15時30分～16時30分

場所 横須賀市教育研究所 会議室

1 開 会

2 教育委員会事務局挨拶

教育委員会教育指導課長

3 専門部会長挨拶

特別支援教育専門部会長 市立ろう学校校長

4 調査報告(進行:部会長)

(1) 養護学校(小学部・中学部)

(養護学校調査委員)

養護学校は現在小学部26名、中学部9名、計35名の肢体不自由を中心とした障害のある児童生徒が通学している。児童生徒の多くが車いす等を利用して生活しているが、個々の課題は様々なため、選択する教科書は異なる。

今年度は、読んで実践したくなるような内容のもの、視覚や聴覚など様々な感覚を使って楽しむものが多く選ばれている。昨年度と違い、工作や標識など、生活の中で実践したくなるような附則9条本(以後、「一般図書」と表記する。)が増え、その種類も広がっている。

また、文字や音声言語のみでイメージをすることが難しい児童生徒のために、実際に手や物を動かしながら楽しめるもの、音や手触りを楽しめるもの、仕掛けによって諸感覚を使って学ぶことができるものが多く選ばれている。

(2) ろう学校(小学部・中学部・高等部)

(ろう学校調査委員)

児童生徒の在籍数は少ないが、子どもの実態が異なるため、児童生徒の目指す姿や、そのために必要な学習内容について学部、教科担当、担任で話し合い、各教科書を選んでいる。

また、前年度の担任及び教科担当者の意見も参考にして選択している。次年度入学予定の児童が使用する教科書についても同様である。次年度の教科書も、一人一人の実態に合ったものを選択できたと考えている。

(3) 特別支援学級

小学校

(小学校調査委員)

文部科学省著作本（以後「☆本」と表記する。）については、国語が2冊、算数が3冊、一般図書は、国語が11冊、算数が8冊、図工、道徳がそれぞれ1冊だった。

一般図書は、同成社「ゆっくり学ぶ子のための」シリーズ、こばと出版「ジャンプアップ」や「ステップアップ」シリーズへの採択希望が多かった。

採択希望があった一般図書は、児童の発達段階に合わせて、スモールステップで言葉、文字、数、数字の習得がなされるように工夫されていた。また、文字が大きく、挿絵も多く、色彩豊かで、生活に即した内容で構成されているため、児童が興味を持って楽しく学べる内容になっていた。

中学校

(中学校調査委員)

☆本は、国語、数学、社会、理科、職業家庭で数件の採択希望があった。日常生活や学校生活に生かせるように、事例に沿った内容で、挿絵や図が多く生徒の学習意欲を高めやすいつくりになっていた。また、知的障害の生徒を対象に作られているため、学年に関係なく、理解度や生徒の障害の状態に合わせて使うことができることも採択希望の理由と思われる。

一般図書は、国語、数学、社会、理科、美術、家庭、英語において採択希望があった。「くらしに役立つ」シリーズは、前年度と同様に採択希望が多くあり、4教科で希望が出ていた。社会参加や自立を目指す特別支援学級（以後、「支援級」と表記する。）の生徒に、実生活に沿った内容を学習してもらいたいという願いが採択希望に反映されていると考えられる。構成は、イラストが多く日常をイメージしやすく、また、一つの項目が長文になりすぎないような配慮がされている。また、アニメのキャラクターを用いた教材や、タッチペンを使用して音声が出るような作りの一般図書も採択希望に出ており、学び方の多様化が伺える。

5 質疑応答

(1) 養護学校（小学部・中学部）

(検討委員)

各教科多くの採択希望を出しているが、それぞれの児童生徒に合わせたものか。

(養護学校調査委員)

はい。Aさんに対しては、Aさんの国語、Aさんの算数、理科というように教科書を選んでいく。

(検討委員)

例えば国語の授業では、一人ずつ教科書があり、個別に指導しているのか、グループ学習を併用することもあるのか。教科書は実際に授業でどの

ような使われ方をしているのか。

(養護学校調査委員)

教科書は個別で使用する人が多いので、子どもに合ったものを選んでいる。グループ学習を検討する場合は、同じ教科書の採択希望を出すことも考えられる。

(検討委員)

生活科などは冊数が少ないが、何人かで同じものを使うのか。

(養護学校調査委員)

生活科は1年生と2年生のみの教科のため、冊数が少ない。3年生から、算数、理科、社会をそれぞれ1冊ずつ使用している。

(検討委員)

子どもに合わせて教科書選択していると理解した。☆本についても、子どもの状況によって採択希望を出しているのか。

(養護学校調査委員)

養護学校では、令和5年度から校内で☆本の展示を始めた。☆本は☆の数によって内容が変わるため、担任は子どもの状況を踏まえ、採択希望について検討している。☆本の採択希望は前年度から増えてきている。

(検討委員)

先生方が一人一人の子どもたちに合った教科書を選択していることが伝わってきた。同じ一般図書でも複数の教科に渡って選択されたり、小学校でも中学校でも選択されたりするもの多かった。同じ本でもねらいをどこに置くかで様々な使い方ができるのだと感じた。

同じ教科書を次年度もまた使用したい、シリーズで揃え年間を通して使用したいと思われた場合は、どのように対応しているのか。

(養護学校調査委員)

同じ教科書を次年度も使用する場合は、学年末に持ち帰る際、担任から保護者にその旨を伝え、引き続き使用する体制をとっている。シリーズで揃え多くの児童生徒が使用する場合は、学校図書館で希望を出す、各教科の教材として購入するなど、相談して決めている。

(2) ろう学校（小学部・中学部・高等部）

(検討委員)

一般図書は小学部から採択希望が出ているのと思うが、中学部はどうか。

(ろう学校調査委員)

中学部は、ほとんどの生徒が通常の学級と同じ内容を学習しているため、検定本を使用している。

(検討委員)

小学部で一般図書を使用した児童は、中学部で検定本を使用するという考え方か。中学部でも一般図書を使用した方がよいと検討することもあるのか。

(ろう学校調査委員)

小学部で検定本を使用している児童は、中学部でも検定本を使用している。一般図書を使用している場合は、学部間で話し合い採択希望を出すことになる。

(検討委員)

ろう学校の今年度の在籍数は、小学部の1年生3名、3年生1名、4年生1名、中学部は3年生1名である。そのため、中学部は令和7年度の採択希望を出していない。

ろう学校では一般図書の採択希望数は少ないが、希望を出しても廃盤になっていることがある。児童生徒にふさわしい教科書を選択するために検討しても、書店には並んでいるが廃盤になっているため、採択できないこともある。

(検討委員)

高等部は、横須賀総合高校で使用する教科書と合わせる考えはあるか。

(ろう学校調査委員)

高等部は、各教科担当が教科書展示会に行き、選択している。生徒の状況や実態によっては、横須賀総合高校と合わせることも難しい場合もある。

(検討委員)

ろう学校は、横須賀総合高校に比べゆっくりとした学習進度である。参考にするが、揃えることは難しい。

(検討委員)

集団の授業では、どのように教科書を使用しているのか。

(ろう学校調査委員)

集団の授業で使用することはない。集団になると学年が混合することが多い。同じ教科書を使用することは難しい。集団で学習する場合は、個別に作成した教材を使用している。

(3) 特別支援学級（小学校・中学校）

（検討委員）

小学校は国語と算数以外の教科は検定本を使っているということではないのか。

（小学校調査委員）

国語と算数以外に出ていたのは道徳と図工で、それ以外は検定本を使用している。または、教材を作るなどで対応している。

（検討委員）

資料に出ているものは、全校の支援級で使うのか。各学校から「これを使いたい」と出てきたものを集約したのか。

小学校調査委員

希望のある学校とない学校がある。複数校から同じ希望が出ているもの、一つの学校からたくさんの希望が出ているものもある。

（検討委員）

国語であれば「ステップアップ」、「ゆっくり学ぶ子」、だいたいこの2社である。国語の教科書はこの2つに集約されているということなのか。これは使いやすいということであるのだと思うが、そのような理解でよいのか。

（小学校調査委員）

こぼと出版と同成社が児童の発達段階に合っており使いやすい。また、生活に即しているという理由で選ばれていた。

（検討委員）

それぞれ何校ずつ、どのくらいの学校で使いたい希望があるのか。

（小学校調査委員）

総数はカウントできていない。

（検討委員）

支援級では国語と算数と図工と道徳だけ一般図書の採択希望が出ている。来年度から生活科の☆本が出てくるが、それを「使いたい」、「良さそうだな」などの声は出ていなかったか。

（小学校調査委員）

出ていなかった。

（検討委員）

国語、算数以外の教科も希望があればここに出てくるということか。

(小学校調査委員)

そうである。

(検討委員)

検定本を使う際、支援級で授業をするのか、交流級と一緒に授業をすることもあるのか。

(小学校調査委員)

その児童に合わせてであると思うが、使用する教科書が異なる場合は、個別に学習することが多い。

(検討委員)

検定本を使う意味として、支援級の児童が交流する通常の学級（以後「交流級」と表記する。）で社会を学ぶなら、検定本で学習するねらいがあるのか。

(小学校調査委員)

検定本で、一緒に学ぶ良さがあると思う。

(検討委員)

小学校では国語と算数以外は検定本を使い、交流級でどうにか参加できるようにしてきた。中学校では、国語、算数以外でも生徒の発達に合わせた教科書が選ばれていることが資料を通して知った。中学校で生徒の実態を見た時に、交流級で学ぶことが難しい生徒が多いと感じる。教科書採択において、中学校は国語でと算数以外、どんな視点で選んでいるのかを聞きたい。

(中学校調査委員)

進路について、支援級の在籍の生徒の中にも公立高校や私立高校の受験を希望する生徒が増えており、全ての教科の授業を交流級で受けている生徒の数も増えている。その場合は、中学校で使用している教科書に基づいて授業をしていくことになる。

また、支援級で多くの時間を過ごしている生徒も障害の度合い等は異なるため、進路の状況も様々である。教科書もそれぞれにあったものを選ぶということが大事であり、この採択希望を見ても一般図書の採択希望もいろいろなものが出てきているという印象を持った。☆本だけでなく、幅広く、教員は教材に関してアンテナを高くして選ばなければならないと感じた。

(検討委員)

小学校では国語、算数以外は友だちとのコミュニケーションに重きを置いて、共に活動できるということを中心に考える教科であっても、中学校

では「自立」や「社会参加」という言葉がキーワードとしてとてもたくさん出ている。そうしたことをねらいとして、進学か自立かということで選んでいるのか。

(中学校調査委員)

「自立した生活をするために」という視点は一番大事にしている。教科書に関係なく、様々な面で生活自立という視点で指導している。

(検討委員)

この資料にあるものは中学校23校から挙がってきたもので、それをまとめた形であるのか。

(中学校調査委員)

そうである。

(検討委員)

国語は一般図書で3種類あるが、これは大体でよいが、1校から1冊挙がってくるのか、1冊の図書について複数の学校から希望が挙がってくるのか、どのような状況であるのか。

(中学校調査委員)

希望がないという学校も多い。偏って希望が出てきている状況である。

(検討委員)

それは数として、希望を出してくる学校は少ないということなのか。

(中学校調査委員)

そうである。あまり多くはない。

(検討委員)

一般図書の希望がない学校は、検定本を使用するということなのか。

(中学校調査委員)

そうとも限らない。検定本を出してきている学校も3校ほどである。

(検討委員)

他の生徒と同じ教科書を使用しているということか。

(中学校調査委員)

支援級で多くの時間を過ごす生徒に関しては、他の教材を使用していることもある。

(検討委員)

教科書以外ということなのか。

(中学校調査委員)

教科書以外のものを使用するケースや教科書を使用するケースもある。

(検討委員)

一般図書か検定本かどうかということであるはず。

(中学校調査委員)

教科書を使用する場合はそうなる。

(検討委員)

検定本を使用している生徒が多いという印象か。

(中学校調査委員)

そうである。

(検討委員)

数学のところで、「シグマベストシリーズ」が毎年、中学校から出てくるが、これは問題集に近いものだと思っている。教科書として扱うことはどうなのかといつも疑問に感じている。評価票では、「イラストが用いられている」や「文章題、図形問題など、いろいろな場面で応用できる」などの理由で使用したいとある。例えば、小学5年生、小学6年生のものであれば、小学校5年生の算数の検定本を使う、または、小学校6年生の検定本を使う、あるいは、☆本を使うなど、そのような方向で授業を組み立てる。「このようにしたらいいよ」などと、先輩の先生から話を聞いた、このような話題が先生たちの間で交わされていることはあるのか。教科書採択であるため、問題集を採択するより、教科書をうまく使おうという話は出ているのか。

(中学校調査委員)

そのような話が出るが、各校で生徒の状況に応じて選んでいる。教科書を使用した方がより知識が入る生徒もいれば、シグマベストのような問題集形式の方が良い生徒もあり、本当に様々である。どの教科書を選ぶにしてもイラストや挿絵、見開きページを基本としている、カラーユニバーサルデザインに配慮していることなどを考慮して選んでいる。その他、細かいところはそれぞれの生徒の状況を考慮して採択希望を出している状況である。

6 全体を通しての意見や感想

(検討委員)

教科書事務は本当に大変。現場の先生方がこれをやるのは本当に大変で

あることは理解している。そのような中で一人一人に合った教科書を先生方は一生懸命に探し、資料を作成していただいたと思う。

気になったところは、同じ教科書を複数の教科で採択する場合の総評である。国語、社会、算数で同じ教科書だとすると、その本の特徴は分かるが、教科においてどんな点がその子に合っているのかが分からない。これで了解とするわけであるが、子どもの状況についての記載が一行でもあると確信をもって「いいです」と言える。また、「この本のここがこの教科にあっている。」同じ本でも「この部分が社会科にあっている。」という記載があると、全ての資料に目を通す時に理解が進む。今後、時間的な余裕があるのであれば、このような記載をお願いしたい。

7 答申内容の原案決定

(部会長)

それでは、答申内容の原案決定を行うこととする。ただいまの審議を経て、この内容をもって採択検討委員会に報告したいと考えるが、よろしいか。

〔はい、という声あり〕

異議なしと認め、この内容をもって採択検討委員会に報告する。

8 閉 会